

株式会社セレクトィ

今後のBIMのニーズ拡大を見据え、 BIM技術者の人材育成を促進し、 『雇用の途切れない会社』を目指す

● 導入の狙い

- ▶ 『雇用の途切れない会社』を実現するために教育研修事業、総合アウトソーシング事業を拡充させたい
- ▶ 今後本格的に普及すると予測されるBIMに対応したい
- ▶ 社内でBIM教育を実施する講師を育成したい

● 導入システム

- ▶ BIM支援プログラム
- ▶ Autodesk Revit
- ▶ Autodesk AutoCAD
- ▶ デスクトップワークステーション
- ▶ モバイルワークステーション

● 導入効果

- ▶ BIMの教育研修を実施する体制を整えることができた
- ▶ 多くのBIM技術者を育成することができた

USER PROFILE

株式会社セレクトィ

● 業種: 労働者派遣業

● 事業内容: 労働者派遣事業、有料職業紹介事業、教育研修事業、土木舗装工事業、ITシステム関連事業、介護サービス事業、各種アウトソーシング事業、各種コンサルティング事業

● 従業員数: 370名(2017年2月現在)



「雇用の途切れない会社」を理念にかけ、労働者派遣事業を推進

2017年2月取材



建築、土木、ITなどさまざまな分野において労働者派遣事業に加え、総合アウトソーシング事業や教育研修事業も展開

株式会社セレクトィでは、教育研修事業の一環としてBIM教育を実施できる体制を整備。Autodesk Revitとデスクトップワークステーション、モバイルワークステーションを導入した上で、大塚商会が提供するBIM支援プログラムのBIM講習を活用して講師を育成した。

その後講師を中心に社内で多数のBIM技術者を育成。BIM関連事業の派遣案件、アウトソーシング案件を引き受けられる人材をそろえ、近い将来のBIMの本格的普及に対応できる体制を整えている。

● 建築業界で主流となることが予想されるBIMの教育研修事業に着手

労働者派遣事業を営む株式会社セレクトィ(以下、セレクトィ)は2010年7月に創業。以降、労働者派遣事業を中心にビジネスを展開し、仙台本社に加えて、東京支店、大阪支店、北上営業所を開設するなど、事業領域を拡大している。

「セレクトィでは『雇用の途切れない会社』を理念として掲げています。一般的に派遣社員というと不安定なイメージがありますが、セレクトィでは一度入社したら定年まで雇用を継続することを基本としています。しかし、労働者派遣事業だけでは仕事を継続することが難しいので、企業から業務を請け負う総合アウトソーシング事業やそのための人材を育成する教育研修事業



ITでオフィスを元気にする

なども手掛けています」と代表取締役伊藤 元一氏はビジネス状況について説明する。

労働者派遣事業や総合アウトソーシング事業を推進するためには、専門的なスキルを備えたスタッフをそろえることが求められるが、その部分を補完するために教育研修事業を展開している。つまり教育研修事業はセレクトィの人的基盤を強化するための重要な役割を担っているということができる。

「地域によって求められるスキルの傾向が変わってきますので、それに応じた教育研修が必要になります。例えば東京では製造業のお客が多いのでプロダクトデザイン向けのCADのスキルなど必要になりますが、東北では震災復興事業が進められているので建築や土木系のスキルが求められます」（伊藤氏）

教育研修事業の中でセレクトィが特に着目したのがBIM(Building Information Modeling)だった。

「2010年3月に国土交通省の官庁営繕事業におけるBIM導入プロジェクトが開始されたように、今後建築業界ではBIMの普及が進んでいくことが予想されるので、セレクトィでも最先端のBIMに通じたスタッフを育成したいと考えました」（伊藤氏）

数年前より、BIMは大手企業を中心に導入が促進されている。BIMで作成された施工図を自社で詳細まで検討した上で、外部企業に施工を委託することで手戻りを減らすなど、設計のみならず、施工の現場でも活用が推進されている。こうした情勢を鑑みてセレクトィではBIM導入の検討を開始したが、そのタイミングで大塚商会主催のセミナーが仙台で開かれ、それに参加

したセレクトィはBIMのソフトウェアを試す機会に恵まれた。

「私はBIMはもちろん、CADでさえも操作したことがありませんでしたが、素人目にも画期的な技術であることが分かりました。今後は間違いなくBIMが主流になっていくと思えましたので、なおさらBIMの導入が必要だと考えました」と営業本部 支店長 仲野 航平氏はセミナーの様子を振り返る。

● Autodesk Revitを導入しBIM支援プログラムで講師を養成

セレクトィはセミナーを契機に大塚商会にBIMに関して相談。その結果、2015年10月にAutodesk Revit(以下、Revit)を1ライセンスとデスクトップワークステーションを1台導入することを決定した。さらに講師がBIMのスキルを身に付けるためにBIM支援プログラムによる講習を受けることになった。そして講師として選ばれたのが佐々木 結氏だ。

「もともとAutodesk AutoCAD(以下、AutoCAD)を使うことはできたのですが、Revit に関しては全く初めて操作するという状況でした。合計で5日間受講しましたが、BIMの重要性を認識することができ、Revitの基本的な操作と設計フローを学ぶことができました」と佐々木氏はBIMの講習を振り返る。

セレクトィに提供したBIM支援プログラムは、BIM導入の基本となる3日間の基礎応用スクールメニューと「BIM実践運用支援」と称する大塚商会の建設BIMを専門に担当するエンジニアによるカスタマイズメニューの2日間の講習で構成されていた。この5



代表取締役
伊藤 元一氏

「労働者派遣業を推進するためには世の中の動向に通じている必要がありますので、大塚商会さんには今後もBIMをはじめとしたさまざまな情報提供を期待しています」



営業本部 支店長
仲野 航平氏

「大塚商会さんとは大きな信頼関係を築けたと思っています。そうした関係だからこそできるビジネスもあると思うので、今後も情報交換しながら良好なお付き合いを続けたいと思います」



佐々木 結氏

「BIMの教育研修を実施している中で不明な点があった場合、大塚商会さんのサポートセンターに問い合わせれば解決できるので、とてもありがたいと思います」

日間の講習を通じて佐々木氏はBIMについての理解が深まったと言う。

「講習を通じてBIMの有用性をよく理解することができ、非常に便利なツールだと実感しました。今後BIM活用が普及していくことは間違いないと思えるので、この機会にBIMに通じることができたことは大変有意義だったと考えています」(佐々木氏)

こうしてBIMの教育研修事業の体制を整えたセレクトィでは、その対象者を集めるために職業安定所で募集を行った。

「募集してみると当初の予想をはるかに上回る数十人という規模での応募がありました。近年の若い世代の方々は、会社に教育研修の体制が整っているのかということを重視する傾向にあるようで、BIM技術者の募集でも教育研修事業を立ち上げた成果が表れたといえるでしょう。大勢の応募があったのですが、全員を受け入れることはできないので、慎重に選考して採用を決めました」(伊藤氏)

教育研修プログラムはRevitだけではなく、AutoCAD もカリキュラムに組み込まれている。

「教育研修の期間は3カ月を基本としていますが、十分に習得できるように人に応じて柔軟に期間は変更しています。当初は1名ずつ教えることを想定していましたが、応募が殺到したため、2台のモバイルワークステーションとRevitを2ライセンス追加導入し、1～3名ずつ教えられるようにしました。Revitの操作法などを教える際、私自身がまだ分からない点もあるのですが、そうした場合は大塚商会さんのサポートセンターを活用しています。気軽に問い合わせることができ、すぐに

解決できるのでとても役に立っています」(佐々木氏)

多数のBIM技術者を育成し、今後のニーズの高まりに備える

セレクトィではこれまで約20名のBIM技術者を育成してきた。

「これまでに多くの技術者を育て、それぞれが派遣先での業務に従事しています。東京ではBIM関連業務の派遣を行っている例はありますが、これはもともとBIMのスキルを有していたスタッフのケースで、BIMの教育研修事業を通じて育成した人材については今後増えていくと期待しています」(仲野氏)

また総合アウトソーシング事業の受注も増えている。

「まだBIMの案件はありませんが、CADの業務をお受けするなど、総合アウトソーシング事業の受注も着実に増えています。教育研修事業を担当している佐々木が空いた時間を活用してCADの受託業務も担当していますが、今後は教育研修を受けたスタッフも戦力になっていくでしょう」(伊藤氏)

現時点でのBIMのニーズは東京などの都市部では高まっているものの、東北地方ではまだ潜在的なレベルに過ぎない状況にある。しかし、大塚商会が仙台で開催したBIM関連セミナーに予想の2倍以上の申し込みが寄せられるなど、将来を見越してBIMを導入したいという気運は高まっている。

また自動化された製造機械とITを活用して生産性を高めるスマート工場の設計においてもBIM活用が推進されている。このように、製造業をはじめとした建築以外の領域にもBIM活用が広がっていることから、よりBIMのニー

ズは高まることが予想される。

「今後は東北地方においてもBIMが普及していくでしょう。セレクトィでもBIMの教育研修事業を継続し、数多くのBIM技術者を育成することで、東北地方におけるBIM普及を引っ張っていく存在になりたいと思っています」(伊藤氏)

佐々木氏は今後BIM関連業務の派遣が増えれば、さらにBIMに関する深い理解が得られると期待している。

「私が教えたスタッフが派遣され、そこでBIMの実務を経験する中でさらに多くの知見を身に付け、それをフィードバックしてもらうことで、社内にノウハウを蓄積できるようになればと期待しています」(佐々木氏)

● 今後は製造業向けのCADや土木業向けのCIMの教育研修も推進

セレクトィでは今後もBIMの教育研修を継続し、人材育成を積極的に推進する予定だ。

「教育研修については、派遣先で開催される研修に参加するというケースもありますが、自社の教育研修事業で育成するという方法が基本になると考えています。特にBIMについては、自社で育成することが東北地方におけるBIM普及につながると期待しています」(仲野氏)

また建築業向けのCADやBIM以外の分野にも教育研修事業を拡大させていくことを計画している。

「まずはプロダクトデザイン向けのCADであるCATIAの教育研修を始めたいと思っています。実はCATIAについてはBIMよりも先に計画を進めていましたが、途中からBIMを優先したた

め、まだ着手できないという状況にあります。製造業のニーズは都市部の方が高いので、東京支店でCATIAの教育研修事業を開始し、将来的に仙台本社でも実施できるようにしたいと考えています。そしてBIMも東京支店や大阪支店でも展開し、既に大阪支店で実施しているITの教育研修も含め、3地域でIT、BIM、CATIAの3種類の教育研修をそろえることを目指しています。さらには震災復興事業が推進されている東北では土木業のニーズも高いので、CIM(Construction Information Modeling/Management)の分野にも拡大したいと思っています」(伊藤氏)

こうした教育研修事業の拡充を計画しているセレクトィでは、支店の拡大も視野に入れている。

「現在、仙台本社、東京支店、大阪支店以外に名古屋、横浜のサテライトオフィス、あるいは岩手県北上市に新設した営業所などが活動拠点となっていますが、名古屋や横浜については将来的に支店として活動できるように拡充していきたいと考えています」(仲野氏)

最後に井上氏は今後のビジネス展望について語る。

「BIM、CATIA、CIMなど、網羅する領域を拡大することで、派遣案件およびアウトソーシング案件の引き合いは増えていくと見込んでいます。そうすることで『雇用の途切れない会社』という理念を実現できると期待しています」

セレクトィは最先端のテクノロジーに通じた人材育成を継続することで社会のさまざまなニーズに応えていく。



実際にRevitを操作しながら教育研修を実施

・会社名、製品名などは、各社または各団体の商標もしくは登録商標です。
 ・事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものであり、配付される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。
 ・この記事は2017年5月に作成されました。